

稲敷市 “持続可能な地域づくり” ニュース <vol.2>

5月2日（月）に開催された第1回「いなしきを未来につなぐワークショップ」に続き、5月16日（月）には第1回「稲敷市持続可能な地域づくりプラン策定委員会」が開催されました。委員会は総勢16名で、次のような構成になっています。

- 【委員長】筑波大学 ^{おおさわよしあき} 大澤義明教授
- 【副委員長】^{しおはた} 塩畑副市長
- 【委員】学識経験者：筑波大学 ^{すげがわのりよし} 鯉川矩義助教、^{むらまつきよみ} 村松清美税理士／ワークショップ4部会の各代表：^{なるけ} 成毛さん（江戸崎）、^{やまもと} 山本さん（新利根）、^{おおた} 太田さん（桜川）、^{やまざき} 山崎さん（東）／稲敷市6部局の長
- 【オブザーバー】^{かけひ} 笥市長、^{しのだ} 篠田市議会議長

大澤委員長からは、「市民目線をどのように組んでいくかが、持続可能なまちづくりには非常に大事だと思う。この“持続可能”というのはハードルが高い課題であるため、世代を超えて過去を超えて、行政も国や県を超えて、自由な発想で意見を交わしながらプランを作っていきたい。」とあいさつがありました。

委員会は、初回ということで事務局からの説明項目が多く、硬い会議の雰囲気呈していましたが、大澤委員長の巧みな進行もあり、徐々に意見が出されるようになりました。ワークショップ代表の4名からは、第1回ワークショップで話し合われた市の現状や課題の発表があり、これに対する行政側の説明などが行われました。また、委員会終了後も様々な意見が交わされていました。



地域づくりプラン策定については、本年末を目途に取りまとめを行う予定ですが、法律に基づく「稲敷市過疎地域持続的発展計画」を9月の定例議会へ提出予定ですので、当面はこの持続的発展計画を睨んだ検討を行います。

今後は、6月中旬に第2回、7月初旬に第3回ワークショップを、また、7月中旬には第2回委員会を開催する予定です。

また、ワークショップの活動においては、メッセージアプリ「Slack（スラック）」が活用され、各部会での意見交換や現地視察なども行われており、予想以上のスタートが切れたと、事務局一同ほっとしています。

◆「持続可能な地域づくりプラン」策定の流れ

